

池田 睦雄(新 政 会)

市長の政治姿勢について

質問 本市では近年、人口の減少が続いており、何としてもこの人口減少に歯止めをかけなければならぬ。このような状況の中、市長は本市の将来像をどのように考えているのか。

また、市長は以前の議会において「人口増対策が、まちづくりの要として私の取り組むべき最優先の課題であります」と答弁している。何か具体的な施策を考えているのか。

答弁…市長

市の将来像と人口増対策は密接に関連しており、活力あるまちづくりを創造することに直結するものと捉えています。

私は、人口を増やして元気な坂出市を取り戻すために、行政としての取り組みを進めている最中であり、

来年度からの組織機構改革において「にぎわい室」を設置することとしていますが、このことは、これまでの取り組みを加速し、また新たなまちづくりを目指し、市民本位の市政を実現するための一つの手段でもありまして、今後、積極的な展開を図っていく考えです。



野角 満昭(日本共産党議員会)

有害鳥獣被害対策について

質問 有害鳥獣、とりわけイノシシによる農業への被害は、本市でも激増している。国・県・市の補助事業は、どのようになっているのか。また、本市の今後の対策は。

答弁…環境経済部長

国の補助事業については、戦略作物の生産拡大等の諸条件がありますが、防護対策の場合、2分の1以内の補助があります。県においては、イノシシ・サルの捕獲奨励金のみで、防護対策の補助事業はありません。市においては、侵入防止柵、罠、捕獲奨励金の補助事業があります。

来年度の本市の事業内容ですが、本年度と同様に、柵、罠、侵入防止柵等の設置に対する補助を考えており、予算規模については、農家等の要望を聞く中で、検討しているところです。

なお、柵や罠の支給については、現状では捕獲者が自らの経験や設置場所の地形等を考えたうえで購入・作成しています。したがって、既成の柵や罠を準備して支給することは、効果とトラブルの両面から、現在のところ困難と考えています。

狩猟免許取得に対する補助制度は、現在は実施していませんが、減少傾向にある狩猟者の確保のため、今後、検討していきたいと考えています。

また、捕獲奨励金の拡充については、今年度は県の補助事業に上乘せし、50頭の捕獲に対し30万円の見込みから、来年度は捕獲頭数の増加が見込まれることから、県に対し増額の要望をしていきたいと考えています。

藤川 亘(社会民主党議員会)

高齢者対策について

質問 1963年は100歳以上の人口は153人だったが、今年はその290倍の44,449人である。その中に、人の支えが必要な高齢者が急増していることは間違いない事実である。

新聞報道によると、認知症の方は推定208万人であり、20年後にはその1.7倍の353万人に増えるといわれている。これを坂出市で計算すると、1,600人以上の認知症の方がいることになるが、本市の実態はどうなのか。また、家族に疎んじられる孤独な高齢者の対策は。

答弁…副市長

介護保険認定時の主治医意見書や認定調査による認知度を基に分析すると、平成22年11月末現在、3,000人余りの認定者のうち1,319人が認知症を有する方と推測されます。

ただし、これはあくまでも介護保険認定時に把握できた方のみであり、介護保険認定を受けていない方で認知症の治療を受けている方、あるいは認知症でありながら治療を受けていない方などを加えますと、相当な数になるものと思われれます。

また、孤独な高齢者の対策については、今年度より新規事業として、介護認定を受けていない80歳以上の一人暮らし高齢者を見守り、支援する相談員、通称「坂出ほっとふれんず」を設置しました。これは、家族や近隣者との交流または福祉サービスの利用機会が少ない高齢者宅を訪問し、安否確認、また話し相手となることにより、高齢者の福祉の増進を図ることを目的としています。